ふりがな　　はしぬま　かつみ

氏 名　　**橋沼 克美**

1. 学歴

1980 年　3 月　東北大学文学部卒業
1980 年　4 月　東北大学大学院文学研究科前期課程入学
1982 年　3 月　同修了

2. 職歴・研究歴

1982 年　4 月　東北大学文学部助手
1984 年　4 月　福岡大学人文学部専任講師
1990 年　4 月　一橋大学経済学部専任講師
1993 年　4 月　一橋大学経済学部助教授
1994 年　9 月　ケンブリッジ大学英語学部客員研究員（1995 年 7 月まで）
1995 年　9 月　ダブリン大学トリニティ・カレッジ英語科客員研究員（1996 年 3 月まで）
2006 年　7 月　一橋大学大学院経済学研究科教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

（a）学部学生向け

英語Ⅰ，英語Ⅱ，英語Ⅲ，経済英語，経済文化，イギリス文学史，地域文化論（イギリス）

（b）大学院

各国経済思潮

B. ゼミナール

学部前期，後期共通ゼミ，大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

英語Ⅰでは，夏学期はフィクション，冬学期は新聞雑誌記事を購読し，主に英文読解力をつけることを主眼にしている。語彙力養成のため，英英辞書の使用を奨励している。授業では訳読は重視せず，音読，単語・慣用句・構文・類義語と反義語・派生形・語源などの理解を重視する。本大学には英語統一テストという関門があるが，限られた授業時間では足りない英語習得の機会のひとつとして自主的に利用してもらいたい。

経済英語では *The Economist* 誌を購読し，基本的な経済用語の知識の習得を目標としている。経済文化では *The Financial Times* 紙などを扱い，より高度な経済英語力を目指す。

イギリス文学史では，通史というより実際の作品を具体的に紹介しながら，イギリス文学への理解を深めることを主眼としている。地域文化論（イギリス）では，毎回個々のトピックを扱いながら，英国文化の現在および歴史の両面に対して関心を深めてもらうことを望んでいる。

教養ゼミナールではアイルランドの文化と歴史について勉強するが，具体的なトピックについては受講者の関心

を優先し，自主的に調べてもらう。毎回自発的に発表をしてもらい，全員で質疑応答をする。調査する手段や提示のしかたなど，学部ゼミナールのための基本的事柄も併せて指導している。

学部ゼミナールは共通ゼミとして開いている。テーマは 17-20 世紀イギリスおよびアイルランドの文化と間口が広いが，具体的な研究テーマは参加者と相談して決める。3 年次は基本的文献の精読，4 年次は卒業論文の製作のための調査と定期的な中間報告に充てる。

各国経済思潮では 18 世紀経済思想について，当時の文献を読みながら考察する。大学院ゼミナールでは受講者と相談の上，テーマを決めてイギリス関連の問題について研究する。

4. 主な研究テーマ

(1)17・18 世紀英国の文学と思想

(2)ジョナサン・スウィフト

(3)サー・ウィリアム・テンプル

5. 研究活動

A. 業績

(b) 論文（査読つき論文には*）

*「字義化された書物—スウィフトの『桶物語』における活字印刷上の工夫—」『試論』第 22 集，1983 年 7 月，43-65 頁。

*「スウィフトの初期風刺作品にみられるホッブズ的要素」『試論』第 26 集，1987 年 7 月，19-41 頁。

"Thomas Hobbes and the Satire on Enthusiasm in Swift's *A Tale of a Tub*" 『福岡大学総合研究所報』第 107 号 1988 年 3 月，11-25 頁。

"Thomas Hobbes and Swift's *A Tale of a Tub* : An Essay on the Problem of Criticism" 『福岡大学総合研究所報』第 108 号 1988 年 3 月，15-27 頁。

「スウィフトの医学的風刺」『一橋論叢』第 105 巻第 3 号，1991 年 3 月，14-28 頁。

*"Swift and the State-Physician" 『試論』第 31 集，1992 年 6 月，23-29 頁。

"Jonathan Swift and Freemasonry," *Hitotsubashi Journal of Arts and Sciences*, Vol. 38, No. 1, 1997, pp. 13-22.

「ジョナサン・スウィフトと医師たち」『一橋論叢』第 118 巻第 3 号，1997 年，438-454 頁。

「サリー州ムアパーク—サー・ウィリアム・テンプルの屋敷とその歴史」『言語文化』第 35 号，1998 年，69-80 頁。

「サー・ウィリアム・テンプル（1628-1699）」『一橋大学研究年報・人文科学研究』第 36 号，1999 年，179-220 頁。

「サリー州ムアパーク—サー・ウィリアム・テンプルの屋敷とその歴史」『言語文化』第 35 号，1998 年，69-80 頁。

「サー・ウィリアム・テンプル（1628-1699）」『人文科学研究』第 36 号，1999 年，179-220 頁。

"The Economic Theme in *Gulliver's Travels*," *Hitotsubashi Journal of Arts and Sciences,* Vol. 42, No. 1, 2001, pp. 41-58.

「ジョナサン・スウィフトと政治経済」『人文科学研究』第 39 号，2002 年，99-157 頁。

「『桶物語』の政治的意義」『言語文化』第 42 号，2005 年，61-75 頁。

*"Swift on Conspiracy" 日本ジョンソン協会編『十八世紀イギリス文学研究第 3 号—躍動する言語表象』（開拓社，2006 年），172-94 頁。

「18 世紀英国初期におけるフリーメイスン」『言語文化』第 44 巻，2007 年，61-75 頁。

（d）その他

[書評] "Toru Nishiyama, *Jonathan Swift and Mercantilism,*" *Studies in English Literature*, English Number 46 (2005), pp. 243-49.

B. 最近の研究活動

（a）国内外学会発表（基調報告・招待講演には*）

18 世紀イギリス文学文化研究会

（d）研究集会オーガナイズ

18 世紀イギリス文学文化研究会

6. 学内行政

（b）学内委員会

入学試験制度委員（2002 年 4 月 – 2004 年 3 月）

語学ラボラトリー（LL）運営委員会委員（2004 年 4 月 – 2006 年 3 月）

語学研究室運営委員（2006 年 4 月 – 2008 年 3 月）

大学入学試験実施専門委員会（センター部会）委員（2006 年 3 月 – 2008 年 3 月）

7. 学外活動

（a）他大学講師等

中央大学法学部

（b）所属学会および学術活動

日本ジョンソン協会, The Ehrenpreis Center（Westfälische Wilhelmus 大学）, 18 世紀イギリス文学文化研究会